

令和5年度第1回岡崎市放課後児童クラブ支援員研修会レポート

【日時】 2023年(6)月(8)日(木)9時30分～11時30分

【会場】 岡崎市役所福祉会館6階大ホール

【内容】 「配慮が必要な児童への育成支援について」

【講師】 1日目：木全和巳さん(日本福祉大学)、2日目：佐々木将芳さん(静岡県立大学)

【クラブ】(風の子クラブ)

【名前】(川原郁美)

本日の研修で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください(自由記述)。

今回の研修では、日々保育をしていて、対応や配慮の方法に困っている子どもの事例を挙げさせていただきました。自分のクラブのことを話しあっていただけるということで、どんな意見を聞くことができるのかと期待して受講しました。

前半は、障がいのあるなしにかかわらず、問題行動をする子どもの心理はなんなのか、どうして大人が困ってしまう言動をするのかを子どもの視点に立ってお話ししていただきました。講義を聞く中で、日々の自分の保育を振り返り、「〇〇して」とか「はやくして」とか、子どもに考える時間や思考や行動を整理する時間を奪うような発言をしていたときがあったと気がつき、反省しました。子どもには子どもの時間があって、子ども自身が考えて動こうとしていたり、どうしようもない心と体の動きを整理しようとしていたりしているときに、大人が急かすような、子どもが追い詰められるような発言をしてはいけないと思いました。

後半は、事例を挙げて対応を検討するグループワークでした。『怒れた時や、誰かと遊びたいときなどに言葉が出ずに、追いかけて手を出したり、ちょっかいをかけにいたりする』子どもの姿を事例として挙げました。また事例の子どもは、お迎えが来るまで1人の時間に「死ね」「殺す」「きもい」などの言葉をぼやいていることがあり、それがなぜなのかも聞いてみました。『追いかけて手を出したり、ちょっかいをかけたりする』については、言葉で伝えられるようにその都度大人が支援するという意見が得られました。私が印象深かったのは、「死ね」「殺す」「きもい」などの言葉について、そのときに起きたできごとや、そこにいる人物に向けてではなく、それまでに起きたこと(昼間のできごと)がフラッシュバックして表現されているのではないかという意見でした。これまで考えもしなかったことで、「今日学校どうだった?」とか「最近風の子どう?」とか、この子とは話したことがなかったので、これからのかわりのなかで話してみようかと思いました。

なんでもないときに話をしたり、遠目から観察したりすることで見えてくる姿もあると思うので、その行動にある背景をいろいろな方法で探ることを、継続しておこなっていこ

うと思いました。

提出されたレポートは、当会のホームページや広報誌に掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、研修終了後、2週間以内です。常勤・専任指導員に手渡し、または、okazakigakudou@yahoo.co.jp までお送りください。